

能・狂言の世界を通して日本文化の本質への理解を深める

## 能楽鑑賞入門

せんじゅ

# 第3回 能『千手』を読み解く

基本的な能の約束事にも触れながら、毎回ひとつの作品を読み解きます。単なるあらすじの説明ではなく、時代背景や登場人物の人間像、根底にある日本人独特の美意識や死生観などに目を向けて、作品世界を掘り下げ、鑑賞する力を育てる講座です。今月取り上げる能『千手』は、南都焼き討ちの大罪を背負った平重衡、政治的立場と人情のはざままで揺れる源頼朝や狩野宗茂といった武士の生きざまを縦軸に、心の慰めとなる白拍子・千手という横軸を通し、そこに交差するつかの間の重衡と千手の魂の触れ合いが描かれます。立場に流されていく男たちの苦悩と一条の光は、現代人の心にも響くテーマです。

令和3年11月19日（金）

時間：14時～15時30分（13時30分開場）

場所：国立能楽堂 大講義室（渋谷区千駄ヶ谷4-18-1）

講師：氷川まりこ

### ◇能『千手』あらすじ

一ノ谷合戦で捕虜となった平重盛は、鎌倉に送られ源頼朝の家臣・狩野宗茂の館に拘留されています。頼朝のはからいで重衡の心を慰めるため遣わされた千手前が、今日も館へとやってきました。重衡はかねてより千手を通して頼朝に出家を願い出ていましたが、朝敵を独断で出家させることはできないという返事が告げられます。落胆する重衡のために宗茂の差配で酒宴がひらかれます。千手は朗詠し、舞を舞い、つかの間心を通わせた二人。勅命によって再び都へと遷されて行く運命の重衡。見送る千手。やがて夜が明けてゆき、二人は今生の別れを告げるのでした。



講師プロフィール：氷川まりこ（伝統文化ジャーナリスト）

横浜エフエム放送で開局準備から番組の企画・編成を担当。その後、フリーの放送作家、雑誌記者、編集者として幅広くトレンドの取材を重ね、1990年代以降は、能楽を中心に、茶、花、香、禅など室町期の東山文化の芸道、芸能を専門として、書籍や記事の編集・執筆、レクチャーなどを行なっている。豊かな経験と取材に裏づけられた知識を基に、多岐にわたるジャンルを縦横につなげて時代や文化をまるごととらえる力は評価が高く、多くの取材の指名を受けている。

参加費：¥2,500 (Tpac会員¥2,200) 定員：80名（要予約）

《参加申込》 伝統文化交流協会 事務局・柳原

◇メール又はホームページ（お問合せ）にて、公演名「能楽鑑賞入門11/19」/ お名前 / 電話番号 / 申込人数】をお知らせ下さい。後日、代金振込のご案内メールをお送りします。

Eメール：[tpacdentobunka@icloud.com](mailto:tpacdentobunka@icloud.com)

ホームページ：

TEL：070-1489-1767(留守電対応となります)

<https://www.tpac.info>



国立能楽堂公演のチケット手配も！

講座受講者でご希望の方には、取り上げた作品が上演される国立能楽堂公演の正面席チケット（有償・割引料金）をご用意いたします（受付締切：11月8日）。

1月21日（金）17時30分開演 定例公演

狂言『文荷』（深田博治/和泉流）、能『千手』（種田道一/金剛流）

主催：一般社団法人 伝統文化交流協会 <https://www.tpac.info> 特別協力：ジャポニスム振興会 / 歴史街道推進協議会

共催：古典の日推進委員会

古典の日

『平成24年9月施行「古典の日に関する法律」により毎年11月1日が「古典の日」と制定され、国民が古典に親しみ心のよりどころになる機運が醸成されることが期待されています。』

新型コロナウイルス感染予防対策に関する注意事項です。必ずお読みください。

- 各自マスクをご持参の上、会場内では必ず着用をお願いいたします。
- ご来場者全員に検温と手指の消毒を実施させていただき、37.5度以上の発熱がみられる場合はご入場をお断りいたします。
- 客席は通常の約半数とさせていただきます。必ず事前予約をお願いいたします。
- 今後のウイルス感染等の状況によっては、定員数の増減や公演中止となる可能性もございます。予めご了承ください。